

教科	科目
国語	国語常識
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次自由選択(H)

履修条件等

履修条件等…特になし

人数制限…特になし

学習内容等

科目の目標… 現代文分野を中心に、進路達成に必要な一般常識や基本的な語尾威力を養成する。

授業形態… 小テストを用いた演習形式

年間授業計画	
4月	【国語基礎力の確認(漢字の読み書き・慣用句)】
5月	進学・就職試験に必要な漢字の知識を身につけることができる。また、慣用句や四字熟語の知識を身につける。
6月	
7月	【就職・面接対策(敬語・文法・書類の書き方)】
8月	尊敬語、謙譲語、丁寧語をきちんと理解し、状況に応じて使い分けができるようになる。「てにをは」等、助詞を適切に使い分けができるようになる。
9月	
10月	【一般教養を身につける(現代用語)】
11月	一般常識や世界情勢など、新聞等を活用しながら、自ら情報を取り入れる姿勢を身につける。
12月	
1月	【これまでの総まとめ】
2月	漢字の読み書き・敬語・現代語の確認を行い、就職・進学してから役立つように知識の定着をはかる。

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	日常的な言葉遣いに関心を持ち、積極的に自分の語彙力を高めようとしている。
	授業態度・提出物・課題
思考・判断・表現	身の周りの表現をとらえ、内容を適切に理解したり、相手に伝えたりすることができる。
	定期考査・課題・プリント
技能	表現の内容を適切に読み取ったり、場の状況に応じて話したりすることができる。
	定期考査・課題・プリント
知識・理解	日常的な言葉遣いについて、基本的な知識を身につけている。
	定期考査・課題・プリント

考査点と平常点の割合

考査:6割 平常点:4割

使用教材等

教科書…なし
副教材…学校作成プリント

進路・資格等

卒業後の進路…主に就職・専門学校進学希望者を対象とする。

関連資格…特になし

教科	科目
地歴	地理B
単位数	必修・選択(枠)
4単位	3年次自由選択(HI)

履修条件等

履修条件等…特になし

人数制限…特になし

学習内容等

科目の目標… 世界各地をより詳しく知り、われわれ日本人とどのような関わりを持っているのかを学ぶ。必修の地理Aと合わせて、かなり深い内容まで学んでいく。

授業形態… 一斉授業

年間授業計画	
4月	【地図活用, 世界の国々を知る】
5月	【自然環境と人間】世界の地形・気候・植生と人間生活との関わりについて学ぶ。
6月	
6月	【自然環境と人間(続き)】
7月	【資源・産業】世界の資源・エネルギーや農業・工業・流通などの諸産業について学ぶ。
8月	
9月	
10月	【生活文化・民族・宗教など】世界のさまざまな生活文化や民族・宗教について学ぶとともに、それらをめぐる動向をとらえる。
11月	
12月	
12月	【地域ごとにみた現代世界】
1月	【現代世界の諸問題】これまでに学んできた地理的事象と関連する現代世界の諸問題について考える。
2月	

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	地理的事象や現代世界についての関心と課題意識を高め、意欲的に探究しようとしている。
	授業中の取り組み・発表、ワークシート、プリント
思考・判断・表現	地理的事象や諸課題について、その背景を多角的にとらえ、その考えを表現している。
	定期考査、授業中の取り組み・発表
技能	地図や統計・図表などの資料から情報を読み取ったり、自分でまとめたりすることができる。
	ワークシート、プリント、課題
知識・理解	現代世界の地理的事象についての基本的な知識を身につけている。
	定期考査、小テスト

考査点と平常点の割合

考査:7割 平常点:3割

使用教材等

教科書…東京書籍「地理B」
帝国書院「新詳高等地図」(1年次で購入済)

進路・資格等

卒業後の進路…就職・公務員一般教養、大学・短大進学に対応する。

関連資格…特になし

教科	科目
工業	通信技術
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次自由選択(H)

履修条件等

履修条件等・・・[産業情報系列 工業]を選択していることが望ましい

人数制限・・・ 12人

学習内容等

科目の目標・・・ 通信技術に関する基礎的な知識と技術を習得し、その知識と技術を実際に活用できるよう身に付ける。

授業形態・・・ 一斉授業

年間授業計画

4月	有線通信(インターネット, LAN, WAN)について学習し、今日の情報化社会を支える通信技術の基礎について学ぶ。
5月	
6月	無線通信(AM, FM, 携帯電話)の基礎理論について学び、現代社会で広く使われている技術の基礎基本について学ぶ。
9月	
10月	通信に欠かせない画像通信(符号化, 画像ファイル方式, 動画圧縮方式)について学び、コンピュータ上での利用について知る。
12月	
12月	通信装置の入出力機器について学ぶと同時に、通信関連法規も学び、広く実践的な知識と技術を身につける。
2月	

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	通信技術に興味・関心を持ち、意欲的かつ誠実な態度で授業に臨む。
	出席・授業への取り組み・提出物
思考・判断・表現	電気のルールに則って通信の事象を図や数式などを用いて表現することができる。
	定期考査, 小テスト, 授業プリント
技能	事象の問題解決に結びつくように応用力を身につける。
	授業への取り組み
知識・理解	基本的な操作を理解して知識を身につける。
	プリント, 演習, テスト

考査点と平常点の割合

考査:7割 平常点:3割

使用教材等

教科書・・・実教出版「通信技術」

進路・資格等

卒業後の進路・・・工業系への進学・就職する者に勧める。

関連資格・・・第2種電気工事士

教科	科目
理科	自然観察
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次自由選択(H)

履修条件等

履修条件等・・・特になし

人数制限・・・ 24名

学習内容等

科目の目標・・・ 学校周辺の動植物の観察を通じて、観察の技能や種の同定、環境評価の方法について学ぶ。周囲の自然に積極的に目を向ける姿勢を養い、環境を意識した人間の生活のあり方を考える。

授業形態・・・ 一斉授業・野外観察・実験

年間授業計画

4月	○自然観察の意義・方法を理解する。 ○テーマ:「草花, 野鳥, 落葉広葉樹」等・・・観察・採集・スケッチ・種同定・標本作製等を行う。
5月	
6月	○テーマ:「水生生物, 土壌動物, トンボ類」等・・・観察・採集・スケッチ・種同定・標本作製・環境評価等を行う。
9月	
10月	○テーマ:「トンボ類, 種子散布」等・・・観察・採集・スケッチ・種同定・標本作製・標本作製等を行う。
12月	
12月	○テーマ:「樹木の冬芽, 針葉樹, 常緑樹」等・・・観察・採集・スケッチ・種同定等を行う。
2月	

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	積極的に生物を観察・採集し、詳しく丁寧な記録を行う。
	採集種数・個体数, スケッチ, 観察時の記録
思考・判断・表現	指標生物の観察データから、その環境の豊かさを評価できる。
	水生生物や土壌動物による環境評価
技能	対象を正確にスケッチし、図鑑等の資料を用いて種を同定できる。標本を正しく作製できる。
	スケッチ, 種の同定, 標本作製, 観察時の記録
知識・理解	観察に必要な基本用語や手順を理解し、正しく用いることができる。
	種の同定, 観察時の記録

考査点と平常点の割合

考査: 平常点:10割

使用教材等

副教材・・・学校作成教材(プリント)
経費・・・材料費として300円を徴収する。

進路・資格等

卒業後の進路・・・特になし

関連資格・・・特になし

教科	科目
商業	財務会計Ⅰ
単位数	必修・選択(枠)
4単位	3年次自由選択(HI)

履修条件等

履修条件等・・・2年次の簿記を履修済みであること
(3級を合格していることが望ましい)

人数制限・・・20人

学習内容等

科目の目標・・・財務会計の仕組みと会計処理について学ぶ。
実社会での経理事務職員としての技術・能力・態度の習得を目指す。

授業形態・・・一斉授業

年間授業計画

4月	財務会計の基礎を学ぶとともに、企業会計の意義と役割について理解する。 財務会計の機能と、会計法規、会計基準を理解する。
5月	
6月	報告式の貸借対照表のしくみと記入法について理解する。特に、資産・負債・純資産について理解する。
9月	
10月	報告式の損益計算書のしくみと記入法について理解する。 損益計算の意味と損益の区分、収益・費用の認識と測定について理解する。
12月	
12月	連結財務諸表のしくみと記入法について理解する。 財務諸表活用の基礎として、財務諸表分析の意義や財務諸表の見方について理解する。
2月	

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	財務会計に興味関心をもち、実社会と関連付けて会計処理を理解しようとする。
	授業への取り組み 出席状況
思考・判断・表現	企業の財政状態や、経営成績の良否を財務諸表を通して判断できる。
	プリント、演習、定期考査
技能	貸借対照表や損益計算書から、正しく財務諸表分析ができる。
	教科書の例題 過去問演習
知識・理解	財務会計が果たす社会的役割について深く理解できるようになる。
	プリント、演習、定期考査

考査点と平常点の割合

考査:6割 平常点:4割

使用教材等

教科書・・・実教出版「高校財務会計Ⅰ」
副教材・・・実教出版『最新段階式簿記検定問題集2級』
経費・・・副教材費 ¥600 検定料 ¥1,300(1科目)
各自電卓を用意すること

進路・資格等

卒業後の進路・・・販売・事務系の就職希望者
経済・経営学部等への進学希望者

関連資格・・・全商簿記検定2級・1級会計

教科	科目
国語	総合表現技術
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次自由選択(I)

履修条件等

履修条件等・・・特になし

人数制限・・・20人

学習内容等

科目の目標・・・国語を的確に理解したり、伝え合う力を高めるための言語感覚を磨く。また、社会生活に役立つ表現力や態度を身につける。

授業形態・・・一斉授業・グループ学習・発表

年間授業計画

4月	【視写、聴写、メモ、絵を言葉にする】 書くことに慣れ、メモを的確にとる力を身につける。 【発声・発音、文字を声に変える】 適切な早さ・音量で話す力を身につける。
5月	
6月	【スピーチ原稿を書く・発表】 簡潔、適切な構成で原稿を書き、発表する。 【文章表現/面接に関する学習】 作文を書くこと、公的に話すことを体験する。
9月	
10月	【言葉遊びと創作】 自分だけの四字熟語、慣用句などを作る。 【ことばと性質(言葉の性質・由来)】 言葉の役割や歴史を理解する。
12月	
1月	【自己との対話(自分史の作成)】 自分の経験を的確に捉えて表現する。また、将来の生活を見通し、表現する。
2月	

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	国語に対する関心を深め、進んで表現するとともに、伝え合おうとする。
	出席状況、授業への取り組み
思考・判断・表現	目的や場面に応じて適切な言葉遣いを判断し、表現することができる。
	定期考査、小テスト、課題
技能	自分の考えをまとめたりして、目的や場面に応じて話したり聞いたり書いたりできる。
	定期考査、小テスト、課題
知識・理解	表現と理解に役立てるための音声、文法、表記語句、漢字などを理解し、知識を身につけている。
	定期考査、小テスト、課題

考査点と平常点の割合

考査:6割
平常点:4割(出席、授業態度、提出物、小テスト、課題)

使用教材等

教科書・・・なし
副教材・・・教育出版『国語表現』
経費・・・ファイル代

進路・資格等

卒業後の進路・・・どのような進路に対しても必要となる力を身につける教科です。

関連資格・・・特になし

教科	科目
公民	倫理
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次自由選択(I)

履修条件等

履修条件等…特になし

人数制限…特になし

学習内容等

科目の目標… 歴史(文化史)に近い授業である。歴史上の哲学者や宗教家の思想を学んで、人間にとって大切なものは何かを考える。「深く考える技術」を身につけることを目標とする。

授業形態… 一斉授業

年間授業計画

4月 5月 6月	心理学や古代の哲学、世界三大宗教を学ぶことを通じて、青年期の生き方を考察する。
6月 7月 9月	日本の伝統的な思想(日本仏教、儒教など)を学び、日本人の伝統的な考え方を理解する。
10月 11月 12月	西洋の近現代哲学について学び、自然や科学技術と人間とのかかわり、民主社会における人間のあり方、幸福の意味などについて考察する。
12月 1月 2月	環境・医療・情報・宗教などにまつわる現代の様々な課題について学び、問題の背景にあるものを考察する。

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	人間のあり方生き方について関心を持ち、深く探求する意欲や態度を身につけている。 出席状況、授業への取り組み
思考・判断・表現	歴史上の思想家の考え方を、自分の体験と照らし合わせて理解し、説明したり論じたりする。 定期考査、ノート
技能	資料から引用した文章を正確に読み取り、理解に役立てている。 定期考査、資料の読み取り
知識・理解	心理学や古代～現代までの哲学者の考え方について、基礎的な事柄を理解している。 定期考査

考査点と平常点の割合

考査:7割 平常点:3割

使用教材等

教科書…第一学習社「高等学校 改訂版 倫理」

進路・資格等

卒業後の進路…一般教養を身につけたい者に勧める。

関連資格…特になし

教科	科目
理科	物理基礎
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次自由選択(I)

履修条件等

履修条件等…特になし

人数制限…特になし

学習内容等

科目の目標… 力学、熱力学、波動学、電磁気学、原子物理学についての基礎的知識を身につける。また、各分野の実験等を通して、現象の観測やデータの整理・処理の方法や、科学的な見方や考え方を身につける。

授業形態… 一斉授業、実験(個別またはグループ)

年間授業計画

4月 5月 6月	【運動の表し方/力/運動の法則】…「等加速度直線運動」「自由落下運動」「合力」「分力」「運動方程式」など、力学の基礎を学ぶ。
6月 7月 9月	【運動とエネルギー/熱とエネルギー】…「仕事」「運動エネルギー」「熱と温度」「熱容量と比熱」など、熱力学の基礎を学ぶ。
10月 11月 12月	【波の性質/音と振動】…「振動数」「周期」「波の重ね合わせ」「音波」「うなり」など、波動学の基礎を学ぶ。
12月 1月 2月	【電流の流れ方/電気の利用/原子核エネルギー】…「静電気」「電流」「電気抵抗」「電力」「発電」など、電磁気学の基礎を学ぶ。

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	身のまわりの物理現象や事象に関心をもち、意欲的に探究しようとする。 授業や課題への取り組み、提出物
思考・判断・表現	物理現象や事象について、実験等で得られた結果をもとに科学的に考察し、適切に表現できる。 定期考査、実験レポート
技能	実験等において、結果を導くために正しく安全に器具を操作することができる。 実験における技能テスト、実験レポート
知識・理解	物理現象や事象について、法則や公式などを理解し、使うことができる。 定期考査、実験レポート

考査点と平常点の割合

考査:7割 平常点:3割

使用教材等

教科書…実教出版「高校物理基礎新訂版」
経費…ファイル代

進路・資格等

卒業後の進路…就職試験や進学試験に対応する。

関連資格…特になし

教科	科目
農業	農業と環境
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次自由選択(I)

履修条件等

履修条件等...実習等しっかりと取り組める生徒。長期休暇中(夏季・春季)における数日間の農場実習を必修とする。

人数制限... 30人程度

学習内容等

科目の目標... 農業に関する植物の栽培や動物の飼育、農業に関する環境の調査や保全について学ぶ。とくにイネの作物栽培を通して、植物の栽培技術やその環境の理解を深める。

授業形態... 一斉授業・実験・実習・ワークシート

年間授業計画

4月	日本学校農業クラブについて知り、これから農業を学習する上での心構えを身に付ける。 「イネの生理」「野菜の種類と分類」について学び、今年1年間の対象となる農産物の基礎知識を得る。
5月	
6月	イネ・夏野菜の栽培、生育調査、環境調査をおこない、農産物の栽培の基礎知識を得る。
6月	
9月	イネの収穫、収量調査を通し、イネの収穫量を理解する。秋冬野菜の栽培、生育調査をおこない、農産物の栽培の基礎知識を得る。
10月	
12月	イネ・各野菜の栽培についてまとめる。
12月	
2月	

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	授業や実習に積極的に取り組み、農作物の特徴を進んで理解しようとする。
	出席状況、授業や実習に対する取り組み
思考・判断・表現	農作物の特徴を理解し、栽培方法などについて自ら進んで工夫しようとする。
	授業への取り組み、ノートやプリントへの記帳
技能	実習を通して、自ら進んで栽培技術を身に付けようとする。
	実習への取り組み
知識・理解	農作物の特徴を理解し、作業への工夫など考えて行動しようとする。
	定期試験、ノートやプリントへの記帳

考查点と平常点の割合

考查:7割
平常点:3割(ノート、ワークシート、授業や実習への参加状況)

使用教材等

教科書...実教出版『農業と環境新訂版』
副教材...学校作成教材(プリント)
経費...農業クラブ会員費・作業着・長靴代

進路・資格等

卒業後の進路...農業関係の進路(進学・就職)を希望する者

関連資格...農業・野菜・土壌肥料関係資格(希望者)

教科	科目
家庭	子ども文化
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次自由選択(J)

履修条件等

履修条件等...特になし

人数制限...特になし

学習内容等

科目の目標... 子どもと遊び、子どもの表現活動、児童文化財などに関する知識と技術を習得し、子ども文化の充実を図る能力と態度を身につける。

授業形態... 一斉授業・実習

年間授業計画

4月	子ども文化の重要性 ・子どものための文化活動、児童文化活動、児童文化施設の重要性について理解する。
5月	
6月	子どもの表現活動と児童文化財 ・造形表現活動(描画、折り紙等)、言語表現活動(絵本の読み聞かせ、紙芝居等)、音楽・身体表現について学び、実習を通して体験する。
6月	
9月	子どもと遊び ・子どもの遊びの意義と重要性、遊びの種類と発達のかかわりについて理解する。様々な遊び、おもちゃの制作を体験する。・遊びと遊具のかかわり、遊具の選び方や与え方などについて理解する。
10月	
12月	子ども文化を支える場 児童文化施設、子どものための各種施設を取り上げ、意義や有効な活用方法について考える。
12月	
2月	

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	子どもと遊び、子どもの表現活動、児童文化財などに関心をもち意欲的に学習に取り組もうとする。
	出席状況、授業や実習、課題等への取り組み
思考・判断・表現	子どもと遊び、子どもの表現活動などにおいて、子どもとの関わり方や遊びの指導などについて具体的に考えることができる。
	定期考査、課題提出、発表、評価カード
技能	造形活動、言語活動における基本的な技術を身につけている。
	実習、作品提出、課題提出、発表
知識・理解	子どもの遊びの意義と重要性、遊びの種類と、子どもの表現活動、児童文化財などについて理解している。
	定期考査、課題提出

考查点と平常点の割合

考查:6割
平常点:4割(課題、作品、出席状況、態度等)

使用教材等

教科書...教育図書『子ども文化』
副教材...学校作成教材(プリント)
経費...実習材料費として3,000円を徴収する。

進路・資格等

卒業後の進路...保育・幼児教育関係の進学を希望する者

関連資格...高等学校家庭科保育技術検定
(造形表現、言語表現 4級、3級)

教科	科目
地歴	日本史A
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次自由選択(J・K)

履修条件等

履修条件等・・・特になし

人数制限・・・特になし

学習内容等

科目の目標・・・日本の歴史について、近現代を中心に、その展開を把握するとともに、文化的特色に関する理解を深める。

授業形態・・・一斉授業

年間授業計画	
4月	【原始・古代・近世(1)】
5月	原始から鎌倉時代までの日本史について、政治体制の変化に着目しながら学び、おおまかな流れを理解する。
6月	【原始・古代・近世(2)】
7月	室町時代から江戸時代までの日本史について、政治体制の変化に着目しながら学び、おおまかな流れを理解する。
9月	【明治・大正・大戦期】
10月	明治政府の内政・外交の特徴について理解する。産業革命以後の社会の変化、2つの世界大戦の背景と影響について理解する。
12月	【戦後】
12月	第二次世界大戦後の日本の状況の変化について、国際情勢の変化をふまえて考察する。
2月	

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	日本の歴史に対する興味・関心を持ち、自ら学ぼうとする姿勢がある。 授業への取り組み、提出物
思考・判断・表現	歴史的な出来事や背景や影響について、国内状況や国際情勢をふまえて考察できる。 発問評価、提出課題、定期考査
技能	図や文章資料から、必要な情報を適切に読み取る事ができる。 発問評価、提出課題、定期考査
知識・理解	日本の歴史に関する基本的な知識を身に付け、その展開について理解している。 発問評価、小テスト、定期考査

考査点と平常点の割合

考査:7割 平常点:3割

使用教材等

教科書・・・第一学習社「高等学校 改訂版 日本史A 人・くらし・未来」

進路・資格等

卒業後の進路・・・就職・公務員の一般教養に対応

関連資格・・・特になし

教科	科目
理科	環境と科学 I
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次自由選択(J)

履修条件等

履修条件等・・・特になし

人数制限・・・32人

学習内容等

科目の目標・・・環境問題や自然現象に関心を持ち、人間活動と環境との関わりについて物理学的・生物学的に理解する。環境や人に対して望ましいはたらきかけのできる技能や思考力・判断力を身に付ける。

授業形態・・・一斉授業, 実験

年間授業計画	
4月	化学分野(無機化学)
5月	自然環境を形成するとともに、人々の生活を豊かにする無機物質について学ぶ。
6月	化学分野(有機化学)
7月	自然環境を形成するとともに、人々の生活を豊かにする有機物質について学ぶ。
9月	物理分野(エネルギー)
10月	電気や磁気、熱などの物理現象の観察、実験を通して探求し、発電のしくみについて理解する。
12月	物理分野(エネルギーの利用)
12月	人類が利用可能な水力、化石燃料、原子力、太陽光、風力などを源とするエネルギーの特性を学び、環境との関わりを考える。
2月	

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	環境問題や自然災害に関心や探求心を持ち、意欲的にそれらを学ぼうとしている。 授業への取り組み、出席、提出物
思考・判断・表現	自然環境の中に問題を見出し、探求する過程を通して、事象を科学的に思考することができる。 実験レポート、プリント
技能	観察実験を通じて基本的操作を習得するとともに、その過程や結果を的確に記録整理できる。 実験の取り組み、実験レポート
知識・理解	環境問題や自然環境について、基本的な原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 定期考査、課題プリント

考査点と平常点の割合

考査:7割 平常点:3割

使用教材等

教科書・・・なし
経費・・・ファイル代

進路・資格等

卒業後の進路・・・工学、理学等4年制大学進学
希望者は履修が望ましい。

関連資格・・・特になし

教科	科目
商業	情報処理
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次自由選択(J)

履修条件等

履修条件等・・・特になし

人数制限・・・20人以内

学習内容等

科目の目標・・・表計算ソフトである Excel を中心としたコンピュータの知識・技術を習得し、実社会で活動できる能力と態度を身につける。

授業形態・・・一斉授業・演習

年間授業計画	
4月 5月 6月	コンピュータに関する知識 ビジネスと情報処理
6月 7月 9月	表計算ソフト活用の基礎Ⅰ SUM・MAX・MIN・IF 関数などの理解問題集から抜粋した問題をこなすこと によってビジネスの諸活動において、情報を扱う者の 役割や責任について考えさせる。
10月 11月 12月	表計算ソフト活用の基礎Ⅱ 後期より習熟度別学習を展開してより細やかな 学習が出来るように展開する。
12月 1月 3月	表計算ソフトExcelによる応用演習 表計算ソフトの各種の関数や機能を活用して、 ビジネスに関する情報を処理・分析した結果を表現する 方法及び統計よりの基礎的な方法を扱う。 データベースソフトの活用の基礎

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	パソコンに興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組む。 出席・授業への取り組み
思考・判断・表現	実社会に出て活躍できるようにその場に応じた情報の収集・処理・分析が出来る。 プリント・演習・小テスト
技能	事象の問題解決に結びつくように応用力を身につける。 教科書の例題・過去問題演習
知識・理解	基本的な操作を理解して知識を身につける。 プリント・演習・小テスト

考查点と平常点の割合

考查:6割(授業内で実施)
平常点:4割(出席・態度・意欲・身だしなみ等)

使用教材等

教科書・・・実教出版『情報処理新訂版』
副教材・・・全商情報処理検定(模擬問題集)

進路・資格等

卒業後の進路・・・一般事務・販売職・営業職 等

関連資格・・・全商情報処理検定 3級 2級

教科	科目
農業	生物活用
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次自由選択(J)

履修条件等

履修条件等・・・2年次または3年次で「農業と環境」を履修していることが望ましい。長期休暇中(夏季・春季)における数日間の農場実習を必修とする。

人数制限・・・30人程度

学習内容等

科目の目標・・・園芸作物の活用に必要な知識と技術の習得を目指す。とくに植物の栽培を利用した福祉活動への応用について理解を深める。

授業形態・・・一斉授業・実験・実習・ワークシート

年間授業計画	
4月 5月 6月	日本学校農業クラブについて知り、これから農業を学習する上での心構えを身に付ける。花きの播種・育苗管理をとおして、植物への接し方について身に付ける。
6月 7月 9月	花きの特性を学び、栽培・利用について理解する。花壇への草花定植を通し、花壇管理について理解する。
10月 11月 12月	園芸作物について学び、福祉への活用法を考える。
12月 1月 2月	サイネリアの管理を通し、自分たちの卒業式の花を栽培し、他者への奉仕について考える。

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	授業や実習に積極的に取り組み、花き類の特徴を 進んで理解しようとする。 出席状況、授業や実習に対する取り組み
思考・判断・表現	花き類の特徴を理解し、園芸への活用について 自ら進んで工夫しようとする。 授業への取り組み、ノートやプリントへの記帳
技能	実習を通して、自ら進んで園芸技術を身に付け ようとする。 実習への取り組み
知識・理解	花き類の特徴を理解し、作業への工夫や福祉への 応用など考えて行動しようとする。 定期試験、ノートやプリントへの記帳

考查点と平常点の割合

考查:7割
平常点:3割(ノート、ワークシート、授業や実習への参加状況)

使用教材等

教科書・・・農文協『生物活用』
副教材・・・学校作成教材(プリント)
経費・・・農業クラブ会員費・作業着・長靴代・花代

進路・資格等

卒業後の進路・・・農業関係の進路(進学・就職)を希望する者

関連資格・・・農業・野菜・土壌肥料関係資格(希望者)

教科	科目
数学	数学活用
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次自由選択(K)

教科	科目
公民	政治・経済
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次自由選択(K)

履修条件等

履修条件等・・・特になし

人数制限・・・特になし

学習内容等

科目の目標... 数学と人間とのかかわりや数学の社会的有用性についての認識を深めるとともに、事象を数学的に考察する能力を養い、数学を積極的に活用する態度を身に付ける。

授業形態... 一斉授業

年間授業計画	
4月 5 6月	数や図形と人間の活動 数量や図形に関する概念など人間の活動や文化とのかかわりについて理解する。
6月 7 9月	遊びの中の数学 数理的なゲームやパズルを通して論理的に考えることのよさを理解し、数学と文化のかかわりについて理解する。
10月 11 12月	社会生活と数学 社会生活などの場面で、数学を事象化し考察できるようにする。
12月 1 2月	数学的な表現の工夫 図、表、行列、離散グラフなどを用いて、事象を数学的に表現し考察することができるようになる。

履修条件等

履修条件等・・・特になし

人数制限・・・特になし

学習内容等

科目の目標... 現代における政治・経済・国際関係についてどんな問題があるかを知り、その問題について背景や解決方法を考えることを通じて、現代社会の一員として生きていく力を身につける。

授業形態... 一斉授業

年間授業計画	
4月 5 6月	民主主義、日本国憲法と人権、日本の政治制度について学び、日本の政治への関心を高め、民主社会の一員として生きる態度を身につける。
6月 7 9月	国際法、国連、冷戦、平和主義などについて学び、国際社会に生きる日本人としての自覚を養う。
10月 11 12月	日本や世界の経済の仕組みを学び、経済への関心を高め、社会の動きを経済的な側面から理解できるようにする。
12月 1 2月	国際経済及び現代社会の課題(少子高齢化、雇用、地域社会問題など)を学び、課題解決のために必要なことを考える。

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	数学と人間のかかわりや数学の社会的な有用性に関心をもち、積極的に活用しようとしている。 出席、授業への取り組み、プリント
数学的な見方や考え方	数学と人間のかかわりや数理的に考察することを通して、見方や考え方を身に付けている。 授業への取り組み、プリント
数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などを身に付けている。 定期考査、小テスト
知識・理解	数学と人間のかかわりや社会的な有用性について理解している。 定期考査、小テスト

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	現代の政治・経済・国際関係に対する関心をもち、意欲的に授業や課題に取り組んでいる。 出席状況、授業への取り組み、ノート
思考・判断・表現	現代の政治・経済・国際関係の諸問題解決のために何が必要か考えわかりやすく説明している。 定期考査、レポート、ノート
資料活用の技能	統計やグラフなどの資料を使って現代の政治・経済・国際関係に関する情報を収集活用している。 定期考査、資料の読み取り
知識・理解	現代の政治・経済・国際関係についての基本的な事柄を理解している。 定期考査、小テスト

考査点と平常点の割合

考査:7割 平常点:3割

考査点と平常点の割合

考査:7割 平常点:3割

使用教材等

教科書・・・実教出版「数学活用」

使用教材等

教科書・・・実教出版「最新政治・経済」

進路・資格等

卒業後の進路・・・就職、進学、公務員など

進路・資格等

卒業後の進路・・・公務員試験志望者、教養を身につけたい者

関連資格・・・特になし

関連資格・・・特になし

教科	科目
商業	ビジネス実務
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次自由選択(K)

履修条件等

履修条件等…特になし

人数制限… 20人程度

学習内容等

科目の目標… 組織の中で良い人間関係を作ることが仕事を進める上で大切である。企業の組織と人間関係を学び計算の基礎となる電卓操作,あるいは文書作成の方法を学ぶ。

授業形態… 一斉授業, 後半になり習熟度別

年間授業計画	
4月	・企業の組織と人間関係 ・ビジネス文書(現在の社会はコンピュータ操作が必要不可欠なものとなっている。その中でタイピングの基礎を学習しビジネス文書の作成を学ぶ) ・電卓
5月	
6月	・ビジネスマナーを学習し,オフィス実務・珠算電卓に関する知識や技術をビジネスの諸活動に活用できるように学習する。
6月	
9月	・企業の組織と意志決定の流れ,職業人としての心構えと良好な人間関係の構築の必要性,仕事の進め方や改善方法などを扱う。
10月	
12月	・オフィス環境の整備の重要性,資料管理の方法,会議の準備と効果的・効率的な運営,グループウェアや会計ソフトの扱い方の学習
12月	
2月	

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	現代社会の基本的な問題に関心を持ち,意欲的に授業や課題に取り組んでいる。 出席状況,授業への取り組み,等
思考・判断・表現	社会での適応力を目指し問題解決能力を養う。 プリント・演習・小テスト
技能	ビジネス文書・電卓の効率的な運用が出来るようにしたり,社会での適応能力を学習する。 教科書の例題・過去問題演習
知識・理解	・社会へ出てから困らないように能力・適性を身に付ける プリント・演習・小テスト

考查点と平常点の割合

考査:6割(授業内で実施) 平常点:4割

使用教材等

教科書…実教出版『ビジネス実務』
副教材…ビジネス文書実務検定模擬問題集
電卓検定模擬問題集 他
電卓等は各自持参

進路・資格等

卒業後の進路…一般事務・販売職・営業職 等

関連資格…全商情報処理検定 3級 2級

教科	科目
理科	環境と科学Ⅱ
単位数	必修・選択(枠)
2単位	3年次自由選択(K)

履修条件等

履修条件等…特になし

人数制限… 32人

学習内容等

科目の目標… 環境問題や自然現象に関心を持ち,人間活動と環境との関わりについて生物学的・地学的に理解する。環境や人に対して望ましいはたらきかけのできる技能や思考力・判断力を身に付ける。

授業形態… 一斉授業, 実験

年間授業計画	
4月	生物分野(生命を構成する要素) 地域の自然環境を考えるために必要な,生命の連続性や遺伝の仕組みについて学ぶ。また,生物体そのものを形成する要素を理解する。
5月	
6月	生物分野(生物の反応と調節) 生物は環境に応じて様々な変化や調節を行っている。植物や動物の体内外において見られる調節の仕組みについて学ぶ。
6月	
9月	地学分野(岩石) 地殻の構成物質である岩石について学び,地域の自然を通して地球システムについて探究する。
10月	
12月	地学分野(地形) 地形の成り立ちについて河川による浸食や堆積作用などによる物質循環を学び,地形を読み取ることによって地域の環境や防災について探究する。
12月	
2月	

観点別評価規準・評価項目

関心・意欲・態度	環境問題や自然災害に関心や探求心を持ち,意欲的にそれらを学ぼうとしている。 授業への取り組み,出席,提出物
思考・判断・表現	自然環境の中に問題を見出し,探求する過程を通して,事象を科学的に思考することができる。 実験レポート,プリント
技能	観察実験を通じて基本的操作を習得するとともに,その過程や結果を的確に記録整理できる。 実験の取り組み,実験レポート
知識・理解	環境問題や自然環境について,基本的な原理・法則を理解し,知識を身に付けている。 定期考査,課題プリント

考查点と平常点の割合

考査:7割 平常点:3割

使用教材等

教科書…なし
経費…ファイル代

進路・資格等

卒業後の進路…生物学,農学,栄養学等4年制大学進学
希望者は履修が望ましい。

関連資格…特になし